

北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

2024年12月1日発行

No. 5



北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌

ACROSS

〈目次〉

1. 巻頭言「What is a bridge?」
2. 同窓生の近況
3. 教育プログラム—学部教育コース
4. 教育プログラム—大学院教育コース
5. 新渡戸カレッジの現況
6. フェロー・メンターの紹介
7. 教員の紹介とメッセージ
北海道大学創基
150周年記念募金のご案内
新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ
ウェブサイト アドレス紹介

*プログラム再編に伴い、2024年度から学部教育コースは学部カリキュラムに大学院教育コースは大学院カリキュラムに名称を変更しました。



- ①水面（水田）にうつるポプラ並木
- ②冬のポプラ並木
- ③医学部の30期生植樹の八重桜
- ④秋の北海道大学正門
- ⑤新渡戸稲造博士顕彰碑（夏）

What is a bridge?



北海道大学新渡戸カレッジ教頭
文学研究院 教授
LA FAY Michelle

It is a noun. In the physical sense, it is something that allows us to get to another place. It helps us to get over obstacles such as rivers. It is a path that takes us somewhere.

As a verb it means bringing things closer or reducing a gap. We often speak of “bridging the gap” between two things.

In a concrete sense, it can be a connection between places and peoples. In a more abstract sense, it can be a connection between cultures or thoughts. It can be, as Nitobe Inazo aspired to be, a bridge across an ocean and a connection between countries. In the latter part of his life, Nitobe noticed that the increase in methods of communication was bringing different parts of the world closer together. He might have been amazed at how close modern communication has brought people together today.

It can be a way to overcome obstacles and difficulties in our lives and in society. And by overcoming these obstacles, it can be a path to learning, self-reflection, and self-improvement. It is easy to forget that famous people were once young and had troubles just like we do. Nitobe was very self-conscious about his looks, but eventually he realized that people can change the way they think about themselves even if they can't change the way they look. Nitobe overcame his insecurity, and this led him to self-confidence.

Nitobe College bridges the past, present, and future for our students. Through Nitobe College, students learn about the thoughts and values of the namesake of the College, Nitobe Inazo. Through Nitobe College, students make connections with peers and researchers from other departments bridging the ideas and concepts of various majors. Fellows and Mentors bridge the gap between the university and the wider world and take students on new paths of discovery. Study abroad gives students a chance not only to build bridges between countries and cultures but also between themselves and the people they meet. Nitobe College bridges the gap between students' dreams and their future realities.

Included in the larger mission of Hokkaido University is a call to tackle and solve the world's problems. No one person can resolve these problems alone. The connections that we make in our everyday interactions become the bridges which allow us to reach across the boundaries of research and across the borders of countries and communities. These connections underpin and strengthen the collaboration which is necessary to solve the problems of the world.

Nitobe College is extraordinary in creating bridges, connections, and paths for our students.

What kind of bridge will you become?

新渡戸カレッジで学んだ 「伴走」と私のキャリア

折登 いずみ
株式会社 LITALICO

2022年3月 学部教育コース修了



「伴走」この言葉との出会いは、新渡戸カレッジのチューター説明会でのことでした。当時担当されていた先生が、チューターに求める役割をこの2文字で表していたことを鮮明に覚えています。

ちょうどその頃、コロナ禍の閉塞感と卒業研究の停滞で心が枯れそうになっていた私には、チューター業務が生きがいでした。授業を通して多くの新渡戸カレッジ生と対話し、微力ながらも学びを支援すること、そして授業の進め方について先生方と議論を交わすことに熱中していました。新渡戸カレッジでは数多くの貴重な学びの機会をいただきましたが、中でもこのチューター業務は私にとって大変有意義な経験でした。

現在は、就労移行支援事業所で就労支援員として勤務しています。働くことに障害のある方の就職と職場定着を目指して、毎日が対話、支援、そして議論という充実した日々です。たとえ同じ診断名だとしても、人によって様々な特性・背景があり、表出する困りごとは多様です。利用者様一人ひとりの強みと可能性を誰よりも信じ、正解のない人生をともに走る。私の「伴走」は、形を変えて現在も続いています。

この社会には未だ数多くの障害があり、道なき道を行くほかないのが現状です。一人ひとりが今よりも輝ける未来を目指して、社会への働きかけを続け、道を作っていきたいです。

好奇心と挑戦が 夢を創る

太田 夢菜
株式会社ニトリ

2024年3月 学部教育コース修了



北海道大学医学部保健学科を卒業後、株式会社ニトリで勤務しております。

学生時代は「好奇心を持ち続け、やりたいことはすべて挑戦すること」をモットーに、忙しい毎日を楽しんできました。身の回りにある課題を見つけ解決したいと考えておりましたので、新渡戸カレッジではコロナ禍で希薄になった学生交流を促進するイベントや、十勝でのフィールドワークを通して実体験から学びを得られるような企画を立ち上げました。また、国際インターンや短期語学研修、北欧でのスタートアップ・カンファレンスの視察など海外への渡航は、私の価値観や将来の選択肢をより豊かなものにしてくれました。

将来は「人々の自分らしい挑戦を支援し、成長と変革と共に幸福度が向上する社会の構築」を成し遂げたいと考えております。そのために、世の中にはどのような課題があるのか、キャリアを積む中で解決したい課題は何か、アンテナを高く張り自分の意見を持つ習慣を身につけようと努力しています。

各々が夢に向かって挑戦し、応援して下さるフェローや先生方がいる新渡戸カレッジは、私にとって最大の挑戦の場であり今でもとても大切な場所です。皆さんも、この最高の環境で妥協せず自分の限界に挑んでみてください。

I want to be a bridge across the world.

奥 聡史

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 研究者
国立大学法人 岩手大学大学院連合農学研究科
客員准教授

2017年3月 新渡戸スクール(基礎)修了
2018年3月 新渡戸スクール(上級)修了



私は現在の新渡戸カレッジの前身である新渡戸スクールにて基礎・上級プログラムを修了し、北海道大学大学院農学院で博士号を取得しました。現在、(国研)農研機構でタマネギなどの野菜の新品種開発や機能性成分に関する研究に携わっています。実のところ、学部生時代から現在まで、10年以上にわたりタマネギの研究をしています。

新渡戸スクールで培った「3+1の力(能力更新力・組織形成力・社会還元力・専門職倫理)」は、社会人となった今でも非常に役立っており、チャレンジして本当に良かったと感じています。例えば、タマネギの新品種開発には通常20年近くかかるのですが、研究をいかに加速させ、優れた品種や成果を早く世に広めるためには、国内外の研究機関と連携しながら課題解決をしなければなりません。そんな場面でも「3+1の力」が大いに発揮されています。最近では、研究活動に加えて、地元の岩手大学で大学院生への教育にも携わっているようになりました。今後も研究と教育を通じて、新渡戸稲造さんのように日本と世界の懸け橋となる存在を目指し、仕事もプライベートも充実させながら、新たな挑戦を追求していきます。

分野横断的かつ国際社会の縮図を体現できる新渡戸カレッジで、北大から世界へ羽ばたいてみませんか。

課題に取り組む力は 社会人生活でも役に立つ

根本 周
富士通株式会社

2019年3月 新渡戸スクール(基礎)修了



北海道大学経済学院を修了し、富士通株式会社にて技術営業・SE・コンサルタントなど多岐にわたる職種で活動しています。主に大手食品や流通系の企業を顧客とし、現在はAIを活用して社会課題の解決に取り組んでいます。

新渡戸で培った二つの能力が、私のキャリアにおいて常に活かされています。

まず、課題整理です。業務の中で「課題は何か?」と問われることが多々ありますが、新渡戸での経験を通じて、課題の本質を見極め、整理する力を鍛えられました。具体的には、ワーク中に与えられた社会課題を分析し、その本質を掘り下げる経験が大きな助けとなっています。

次に、ドライビングの能力です。「目指すべきゴールに対して、どのように話を進めていくか」を考え、実行する力です。プロジェクトを自分主体で進める際に、このスキルが非常に役立っています。新渡戸では、社会課題に対してどうアプローチし、ドライブしていくかを常に考えさせられる場が多く、それが現在の職務にも生きています。そして、新渡戸で得たかけがえのない友人たちとの交流が、私の人生を豊かにしてくれました。さまざまなバックグラウンドを持つ人々と意見を交わし合うことで、多角的な視点を養うことができました。新渡戸は、私にとって特別な居場所でした。興味のある方は、ぜひプログラムに参加してみてください。

◆同窓生の近況◆



■グローバル基礎科目

基礎プログラム生を対象とした第1学期の必修科目です。春ターム「国際理解と海外留学」では、国際経験豊かな教員によるオムニバス講義を通じて、留学の目的と意義を考える内容の授業を行いました。夏ターム「リーダーシップとチームワーク」では、課題に対する調査分析とグループ活動を通じて、チーム内での望ましいリーダーシップの発揮を目指し、前年度に続き、札幌市まちづくり政策局の協力を得て実施しました。次年度からは、新渡戸カレッジ入学への導入科目として位置づけ、内容のさらなる改善を図っていく予定です。



■フェローゼミ

学部カリキュラムの必修科目で、フェローの指導のもと、少人数のグループで現代社会の課題に取り組みます。2023年度は6つのテーマに分かれ、課題解決に向けた提案を検討し、最終日の公開シンポジウムで各ゼミの代表チームが成果を発表しました。フェローゼミは、チューターによるサポートに加え、視察先やゲスト講師、教員など、多方面からの支援を受けて行われる授業です。次年度も、さらに充実した内容を提供できるように取り組んでいきたいと思っております。



■海外留学

「海外留学」は新渡戸カレッジ生の国際性涵養を目的とした必修科目で、交換留学、国際インターンシップ、学部専門レベル短期留学などがあります。2023年度は、交換留学の学生22名、国際インターンシップの参加者20名と学部専門レベル短期留学の参加者7名が海外留学の単位を取得できました。コロナ禍による影響がようやく収まって留学を積極的に考える学生が増えてきたなかで、オンラインでの留学プログラムの開発を含め、もっと幅広い留学の機会を新渡戸カレッジ生に提供していくことが今後の重要な課題であると考えます。

■セルフキャリア発展ゼミ

自らの未来を構築するための力を養うことを目的とする、フェローと学生による集团的伴走支援を中核としたキャリアセミナーです。前年度に引き続き、北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル深川で1泊2日の合宿を行いました。2023年度の新たな取り組みとしては、新渡戸カレッジ卒業生6名が合宿に参加し、新渡戸カレッジでの活動、特にセルフキャリア発展ゼミに参加した経験が現在のキャリアにどのような影響をもたらしたのかなどについて、履修生と共有しました。新渡戸カレッジの在学学生、卒業生とフェローが一同して親睦が深まる時間となりました。



■対話プログラム

オナズプログラム生を対象としたプログラムで、フェローと一対一で対話することを通して、リーダーとしての資質を鍛錬することを目標とします。2023年度は、オンラインを中心に一部対面を取り入れながら、年4回実施し、参加学生からは、知識や視野が広がった、進路について方向性が定まったなどの感想が寄せられました。なお、本プログラムは、本年度をもって終了しますが、今後は、その実績と成果を踏まえつつ、別の形で継承していきたいと考えています。



教育プログラム紹介——大学院教育コース

* 2023年度の様子

2022年度より、新型コロナウイルスの感染対策を十分に講じることで対面授業が可能となりましたが、2023年度からはいよいよ特別な制約もなく対面授業が可能となりました。また、2022年度で島田特任准教授および繁富特任准教授が退任され、昨年度から2名の特任助教（ホイットフィールド・デール・リー先生、ロマーエヴァ・マリナ先生）を迎えて新しい授業実施体制となりました。ここでは、昨年度に実施した授業やイベントの中から、基礎プログラムとオナーズプログラムそれぞれの主要科目およびメンターフォーラムについて紹介します。

■ 大学院基礎科目Ⅰ・Ⅱ

— チーム学習の基礎・実践（基礎プログラム授業科目）

大学院基礎科目Ⅰでは、大学院教育コースで養成する専門性を課題発見・解決に活かすために必要な能力「3+1の力」の理解を深め、その基礎となる創造的思考、批判的思考、リーダーシップなどを題材として、チームワーク力を伸ばす授業を重点的に行いました。大学院基礎科目Ⅱでは、初回の授業で専門職倫理について学びました。また、2回目以降では、チームで効果的・効率的に協働するためのプロジェクト・マネジメント（PM）の基礎を学ぶとともに、基礎科目Ⅰで修得した知識・能力および専門職倫理を活かしながら2つのプロジェクトを実践することでPMについて体得しました。夏タームでは昨年度に引き続き“How Can We Solve an Urban Brown Bear Problem in Sapporo?”および“Campus for Camp - a Refugee Response Plan in Sapporo”をプロジェクトとして採用しました。札幌市における居住域へのヒグマの頻出問題への解決策ならびに北大キャンパスを難民キャンプとして開放する際の「住居」、「食事」、「教育」の問題解決に向けて、PMを活用した計画作りに取り組みました。冬タームでは、新たなプロジェクトとして“Develop a Winter Lifestyle Plan for Sapporo City Residents”と“Embracing Winter Bliss”というトピックを採用し、札幌市民としての視点およびグローバルな視点での雪国の冬の生活に関するテーマに取り組みました。最終回の授業では各チームの成果発表をしますが、冬ターム最終回は中島竜雄（北海道庁総務部北方領土対策局長、北海道大学OB）氏を招聘して“Improving Citizens' Life Quality in Winter : The Case of Hokkaido”をテーマにご講演いただくとともに、学生の発表に対する講評をいただきました。

なお任意参加ではありますが、冬ターム基礎科目Ⅱのプロジェクトへの学生の取り組みの一部は、世界冬の都市市長会2024年実務者会議開催記念イベント「冬の都市のまちづくり～Winter City Planning～」(2024/1/31)にて、学生自身による発表も行っています。今後も新渡戸カレッジでの学生の取り組みの成果を外部発信させていきたいと考えています。



■ 大学院発展科目Ⅰ・Ⅱ

— 課題解決・問題発見（オナーズプログラム授業科目）

春タームの大学院発展科目Ⅰでは、本年度もテーマの大枠をSDGsと定め、課題解決に取り組みました。SDGsの17の目標より学生が関心のある目標を選択しました。4つの学生チームがそれぞれ、SDG2 (Zero Hunger)、5 (Gender Inequality)、8 (Decent Work and Economic Growth) および11 (Sustainable Cities and Communities) の目標を選定し、解決案を検討しました。一方、秋タームでは、テーマの大枠を「世界的な肥満症流行への対策提案」と定め、4つのプロジェクトを選定し、各チームが同様に取り組みました。大学院発展科目Ⅱでは、一つのテーマ（夏ターム: Problems of Organizing Events in Sapporo、冬ターム: Navigating Modern Sapporo）を選定し、種々のインタビュー調査などのフィールドワークにより収集したデータの分析に基づき、我々の住む札幌における各種問題の発見に取り組みました。また授業では、社会の第一線で活躍されているメンターやフィールドワークを取り入れた研究者に講演をいただくとともに、学生チームのプロポーザル・プレゼンテーションへのアドバイスをいただきました。こうした専門家や一般参加者（最終発表のみの）の前での発表は、学生にとって緊張感のあるものとなり、良い経験になったものと思います。

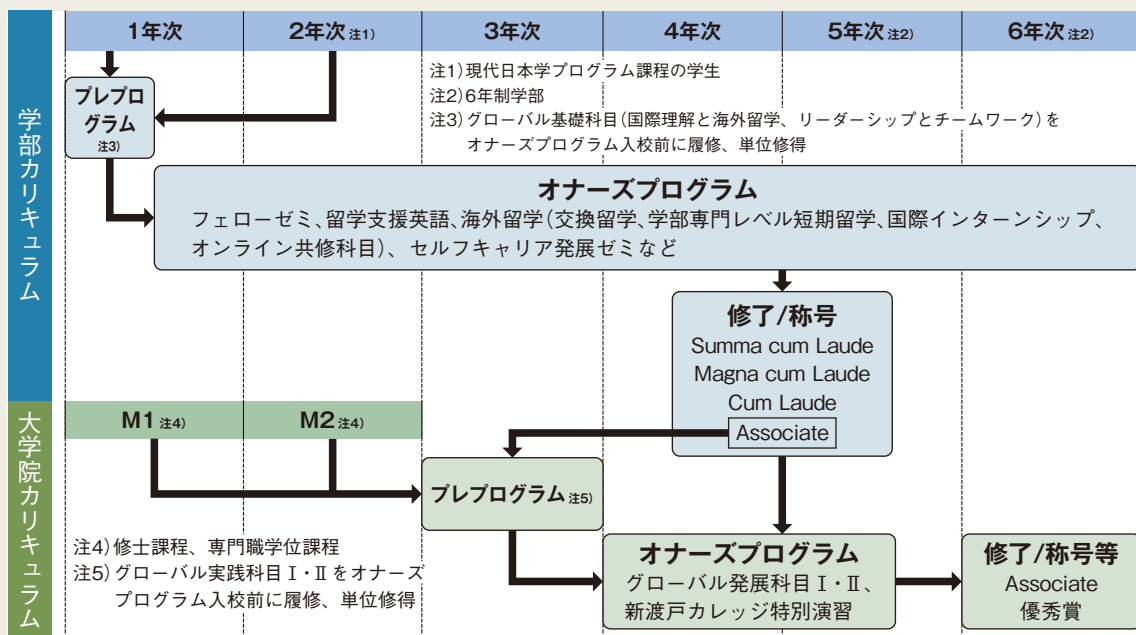


■ メンターフォーラム

6月18日(日)は「Think your career path」、12月16日(土)は「Career opportunities for degree holders in the public and private sectors」というテーマでメンターフォーラムを開催しました。第1回目は5名、第2回目は6名のメンターに参加いただきました。講演会では、メンター自身のキャリアや実社会での経験に基づくアドバイス等についてお話しいただきましたが、学生は多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に大いに刺激を受けていました。続く交流会では、学生は大学における研究活動および今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを受けることができました。メンターフォーラムは、学生のキャリア意識の醸成、社会的視野の拡大、人的ネットワークの形成にとって良い機会となっています。

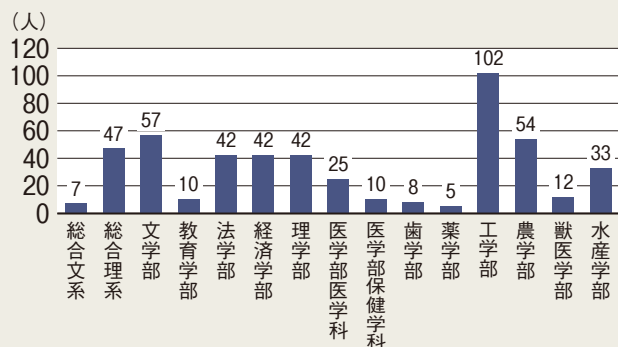


新渡戸カレッジ入校から修了までの流れ(2024年度～)



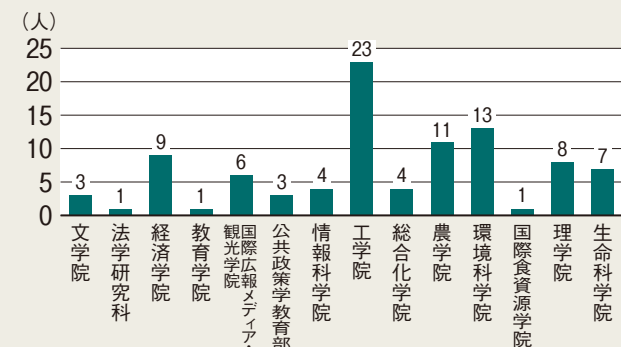
■ 学部教育コース

● 2023年度学部別在籍者数(合計496名)

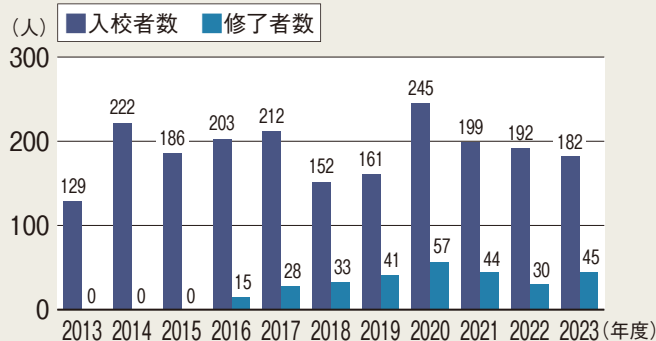


■ 大学院教育コース

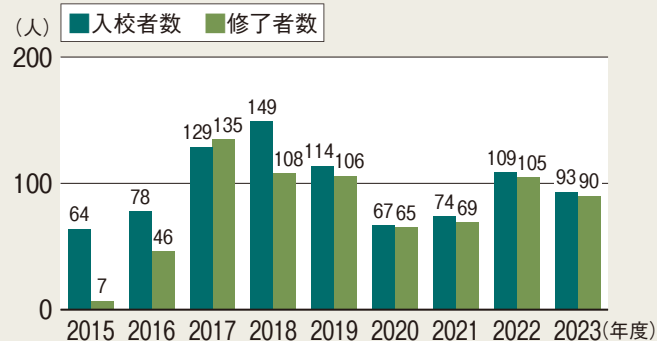
● 2023年度学院別在籍者数(合計94名)



● 入校者数と修了者数



● 入校者数と修了者数



● 学部教育コース修了者の進路(2023年度)

就職(一般企業)	10名
就職(官公庁)	1名
進学(本学大学院)	15名
進学(本学以外の大学院)	11名(国内)
留学・研修参加	5名
未定	3名

● 大学院教育コース修了者の進路(2023年度)

本学大学院在学中	68名
就職(一般企業)	6名
進学(本学大学院博士後期課程)	11名
未定	5名

フェロー・メンターの紹介

意識を変え成長し続けること



伊藤 慎
フェロー

アルジェニクスジャパン株式会社
神経疾患領域
マーケティング部門
アソシエイトディレクター

新渡戸カレッジは、学生のうちから将来に向けて自ら考え成長を続けられる素養を身に付ける機会を提供するプログラムだと思います。私は学生時代には将来について深く考える機会を持たず、行き当たりばったりで研究室や就職先・職種を選択してきました。今考えると与えられた環境の中で、短期的な狭い視野の中で生活していたと思います。製薬企業に就職してからは、自身の人生をどう形作るかを考え、また社内外で得られる様々な機会を活かし、自ら学び続けることで視野を広げ、自分自身から働きかけることでキャリアを形成しています。学生時代と社会に出てからの最も大きな違いは視座であり、その結果行動が変わったと考えています。

新渡戸カレッジでは、フェローが学生時代に体験できていれば良かったと思うことを、学生に経験する機会を提供しています。新渡戸カレッジ自体も発足から10年以上が経過し、環境の変化に応じてその構成や活動も変わってきています。学生の素養を育むと共に、成長し続けられる組織・個人でありたいと思います。

多くの起業家を生み出す為に



中島 徹
メンター

15th Rock
Founder & General Partner

私はベンチャーキャピタリストとして、日本と海外でスタートアップ投資の仕事は15年程してきました。最近の学生は、スタートアップへの興味や関心がとても高いですが、大企業を目指すケースが多い北大生の場合、身近にロールモデルがなく、学ぶべきことやキャリアパスに迷うことが多いようです。

将来、起業家やVCを目指す学生に向けて、私の経験や国内外の大学発スタートアップの事例を共有し、北大から多くの起業家が輩出されるキッカケを作りたいと考えています。新渡戸カレッジの授業は、英語で行われ、留学生を含む多様な国籍・文化の学生が議論を通じて学ぶ、海外のMBAプログラムのような刺激的な環境です。修了生は在学中に貴重な経験を積み、北海道大学から多くの起業家が誕生する兆しを感じています。

この機運を捉えるべく、我々15th Rockは大学と共に「北大ファンド」を立ち上げ、北大からのスタートアップ創出を支援していきます。今後、新渡戸カレッジでの学びを活かし、多くの卒業生が北大ファンドを通じて実践に繋がられるよう支援していきたいと考えています。共に「世界を変えるスタートアップ」を生み出して行きましょう！

フェロー&メンター

フェロー

石川めぐみ

CJコミュニケーション 代表

石川裕一

(株)ぶらう 代表取締役社長
ジョンソンコントロールズ(株) 取締役

伊藤 慎

アルジェニクスジャパン(株)
神経疾患領域 マーケティング部門
アソシエイトディレクター

上田英樹

(株)テクノラボ 代表取締役社長

大友俊彦

中外製薬(株) オンコロジー
ライフサイクルマネジメント部長

多田幸雄

(株)双日総合研究所 相談役
長崎大学経済学部客員教授

萩野 泉

(株)電通クロスブレイン 執行役員
CGO(Chief Growth Officer)

日野峰子

会議通訳者

廣重勝彦

北海道大学東京オフィス副所長
(ファンドレイジングマネージャー)
(一社)日本社債調査センター
代表理事

三村直己

フリーコンサルタント

村山和佳

(株)ズコーシャ 技術部次長

森 順子

(株)ハッピーアロー 代表取締役

メンター

石川憲一

デンタルアロー(株) 相談役

OFOSU-TWUM Eric

(株)日立製作所
研究開発グループ 研究員

黒田垂歩

ブラックフィールズ
コンサルティング CEO

佐賀美紅

(株)日立製作所
鉄道ビジネスユニット
人事総務本部

佐伯百合子

(株)資生堂 みらい開発研究所
R & D 戦略部 研究員

中島 徹

15th Rock
Founder & General Partner

中原 拓

メタジェンセラピューティクス(株)
代表取締役社長

萩野 泉

(株)電通クロスブレイン 執行役員
CGO(Chief Growth Officer)

藤井幸大

サンマルコ食品(株) 代表取締役社長

和田義明

前衆議院議員

教員からのメッセージ

学部カリキュラム

肖 蘭

高等教育推進機構・国際教育研究部

新渡戸カレッジに関わって9年目となりました。短期留学の引率とセルフキャリア発展ゼミを中心に運営してきたほか、グローバル基礎科目、フェローゼミ、アドバンスゼミなどにも支援教員等で参加しており、学部カリキュラムの多くのプログラムに関わってきました。新渡戸カレッジでは「教育」することも面白かったですが、多様な「連携」ができたこともとても貴重な経験でした。様々な専門背景を持つ教員はもちろん、チューターや留学相談員など、多くの学生と一緒に仕事をすることができて、若い世代の斬新なアイデアに良い刺激をいただきました。これからも新渡戸ネットワークを大事にしていきたいと思えます。



畑中貴美

高等教育推進機構・新渡戸カレッジ教育研究部

新渡戸カレッジでは、国際経験豊かなフェローが指導する科目や、上級生が授業をサポートする科目など、独自の取り組みが展開されています。様々な経験を持つフェローとの出会いを通じて視野を広げ、イベントの企画や起業に挑戦する学生、チューターとして後輩の学びを支える学生も多く見られます。そうした意欲的な姿や成長を見守ることは、教員としての大きな喜びです。学生の皆さんが新たな挑戦を通じて成長し、さらなる可能性を広げていくことを心より応援しています。



WHITFIELD Dale Lee

高等教育推進機構・新渡戸カレッジ教育研究部

Looking back on my experience with the Graduate Curriculum throughout the last five years, I am always amazed by the fresh perspectives and enthusiasm of our students. Their insights keep the program exciting and constantly evolving. One of the most fulfilling parts of being part of Nitobe College is watching students develop and witnessing the lasting friendships and connections they forge. These bonds, nurtured through shared learning and teamwork, truly showcase the program's strength. Being part of this collective journey of growth and exploration has been an incredible privilege, and I am very thankful for being able to contribute.



LOMAEVA Marina

高等教育推進機構・新渡戸カレッジ教育研究部

We live in an age where our impact on the environment has reached a planetary scale, evident in climate change and biodiversity loss. In the Anthropocene, volatility and unprecedented challenges like Covid-19 are the norm, making critical and creative thinking, problem-solving and problem-finding, adaptive project management — skills nurtured at Nitobe College and recently enhanced by generative AI — vital for survival. These skills require teamwork and leadership: collaborating with those different from you, and guiding them beyond their current limits. Let us journey together, questioning “absolute truths” and seeking paths to peaceful coexistence with diverse individuals, societies, and other life forms.

2024年度 新渡戸カレッジ担当教員

卯 和 順	副校長 (副学長・大学院文学研究院 教授)	シユウ ラン	学部カリキュラム 授業「新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)」実施・海外留学 (高等教育推進機構 講師)
ラ フェイ ミシェル LA FAY Michelle	教頭 (大学院文学研究院 教授)	山 畑 倫 志	学部カリキュラム 授業「新渡戸学 (フェローゼミ)」担当 (高等教育推進機構 講師)
谷 博 文	副校長補佐 (大学院工学研究院 准教授)	畑 中 貴 美	学部カリキュラム 授業「新渡戸学 (フェローゼミ)」実施・行事企画 (高等教育推進機構 特任講師)
伊 藤 秀 臣	教育支援責任者 (大学院理学研究院 准教授)	田 中 孝 平	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施 (高等教育推進機構 助教)
佐々木 啓	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施 (大学院文学研究院 特任教授)	ジョン ハン モ 鄭 漢 模	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施 (高等教育推進機構 助教)
亀 野 淳	全学教育科目 (大学と社会)・学部カリキュラム キャリア支援 (キャリアセンター長 高等教育推進機構 教授)	川 谷 維 摩	学部カリキュラム 授業「新渡戸学 (フェローゼミ)」実施・行事企画 (高等教育推進機構 特任助教)
江 本 理 恵	学部カリキュラム 新渡戸ポートフォリオ (高等教育推進機構 教授)	ロマーエヴァ マリーナ LOMAEVA Marina	大学院カリキュラム授業実施 (高等教育推進機構 特任助教)
野 澤 俊 介	学部カリキュラム 授業「新渡戸学 (フェローゼミ)」担当 (高等教育推進機構 准教授)	ホイットフィールド デール リー WHITFIELD Dale Lee	大学院カリキュラム授業実施 (高等教育推進機構 特任助教)



新渡戸カレッジ生へのご支援をお願いします。

「北大フロンティア基金 新渡戸カレッジ支援事業」へのご寄附については、新渡戸カレッジ生の『海外留学支援』『修学支援』に活用させていただいております。

新渡戸カレッジ生を応援する➡

フロンティア基金
新渡戸カレッジ支援事業へ
アクセス!

新渡戸カレッジ同窓生の皆さんへ 北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワークへの 登録をお願いします!

- 下記の新渡戸カレッジのウェブサイトまたはQRコードから登録をお願いします。
- 得られた情報は、個人情報保護法に基づいて、当ネットワークが厳格に管理し、本人の同意なく外部に提供されることはありません。



<https://ws.formzu.net/fgen/S23755582/>

ウェブサイトのアドレス

- ウェブサイト「新渡戸カレッジ」
<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>



北海道大学新渡戸カレッジ同窓ネットワーク (HU-NCAN) ACROSS 編集長 山畑倫志 (高等教育推進機構・国際教育研究部 講師)

北海道大学新渡戸カレッジ推進事務室 〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目 TEL: 011-706-5414 E-mail: ncan@academic.hokudai.ac.jp

2024年12月1日発行